

1 親子の居場所事業

目指す視点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・関係機関と連携し、より地域のニーズを捉えた企画を考えていけると良い。 ・ニーズを共有しながら3歳以上の未就学児を対象とした企画等をさらに実施できると良い。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。	・テーマ別交流会やバパスクール等企画の詳細な内容の見直しやPRの仕方を考えていけると良い。 ・地域での子育て資源の充実のため、出向いてバックアップできる形がとれると良い。	A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		B	B
☆拠点に来館が困難に方々に向けての対応がなされている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ) 令和2年度はコロナ禍のため一部の事業は中止

		H29	H30	R元	R2
お外で遊ぼう(公園)	回数	51	41	37	28
	人数	460組/990人	419組/952人	358組/782人	354組/743人
金沢区気軽に子育て相談(商業施設:アピタ)	回数	123	149	134	-
	人数	1,465組/3,337人	1,720組/3,910人	1,545組/3,501人	-
	相談	472	628	651	-
テーマ別語り合いイベント(多胎ママ交流会:はじめてのどことこ・きょうだい児について語る)	回数	-	38	25	22
	人数	-	190組	137組	75組

①【利用者の状況に応じた丁寧な関わりによる雰囲気づくり】

・特に初来館者に対し、声かけや丁寧な対応により緊張感がほぐれていき、安心して過ごせるように関わる等、居場所として感じられるように心がけている。また、日々の利用者との距離感を大切にしている。  
・コロナ禍の中、利用者数の制限や利用方法の変更をおこない運営をした。電話予約の際やひろば再開後、はじめて利用された際には変更点の書いてある用紙を渡しながら丁寧に対応した。利用者数の制限により、今まで以上に目が行き届いている。

②【多様性を認め合うひろば・一方で対象を絞った居場所づくり】

・0歳への親子、父親、祖父母世代、学生、外国籍の方、多様な方々が集う場所であることを常に意識した対応をしている。  
・日々の振り返りでひろばの様子を共有、対応に困ったときもみんなで考え次に活かしている。  
・多様な方が集う場所としてのきっかけやつながりづくりを目的として、テーマ別語り合いイベントを開催している。(はじめてのどことこ、多胎ママ交流会、兄弟児の子育てについて語る)、多文化ママ交流会)  
・「発達に不安のあるママ同士で話しましょう」「ふわふわ(個別支援学級に通うママ同士で話しましょう)」「にこまーの会(口唇口蓋裂のお子様を持つ保護者同士で話をする会)」などは拠点休館日や研修室を利用する事で、通常のひろばには行きづらさを感じている親子の居場所になっている。

【オンラインを活用した新たな取り組み】

・来所困難な方へ向けて「ふわふわ」「にこまーの会」のオンラインでの語り合い、YMCA保育園の子育てサロンの上映、「みんなdeストレッチ」「タッチケア」「教えて!土谷先生オンラインおしゃべり会」はひろばとオンライン同時開催を行った。また、職員会議・研修でもオンラインの活用が進んだ。

③【拠点利用者アンケートやどことこポストをもとに利用者の声やニーズを区と共有し、ひろば運営に反映】

・毎年行っている拠点利用者アンケートを分析し、区と利用者のニーズを把握。ひろば運営に活かしている。  
・どことこポストに届けられた声や利用者ニーズ、ひろばで受けた相談に関しては、いったん職員間で共有し、協議をした上で答えを見いだしている。回答に関しては、ひろばへの掲示やどことこ通信に掲載し、広く周知している。  
・養育者のニーズに合わせて、コーナーごとに過ごす子どもの月齢に合わせた情報を掲示・配架している。

④【オープンスペースの利点を活かした成長の見通しの場】

・赤ちゃんコーナーでは安全面を最優先にし、こどもの月齢・年齢に応じたひろばのゾーニングをすることにより、子どもたちがゆっくり遊び、保護者もゆったり過ごせる空間づくりを行った。  
・職員が利用者同士の橋渡しを行い、他の利用者との関わりの中で子の成長の見通しをたてたり、親同士が話す機会を持つことで、教えてもらう立場から教える立場への転換を促進している。  
・日々の職員との関係性から、利用者自身が発信し、得意分野を生かし拠点の活動を一緒に作り上げている。(コミュニケーションボードの作成、チラシ作成、手作りの会(※1)に参加等)※1簡単にできるおもちゃや子育てグッズなどを養育者が集まり交流をしながら作成。その際は、ボランティアの方が子の見守りを行っている。  
・★【商業施設(アピタ)でのサテライトと同様の位置づけ】  
・どことこまで来られない方や、拠点との接点が無かった方々に向けて、区内商業施設(アピタ金沢文庫支店)で週3回職員が出張している。子育て相談、情報提供、参加者同士のつながり等、拠点のサテライトと同様の位置づけとして定着している。令和2年度はコロナ禍のため中止。

【外遊びの大切さを伝え続ける「お外で遊ぼう」】  
・乳幼児期の外遊びの大切さを区をあげて伝え続けている。「お外で遊ぼう」では、区内10ヶ所の公園に公園サポーターが出向き、外遊びのサポートをしている。公園サポーターがいることでその日を目指して参加する親子もおり、外遊びを通じた交流の場になっている。育児教室とのタイアップにより、育児教室から外遊びへつなげるように工夫している。令和2年度からコロナ禍の為、育児教室とのタイアップは休止中。

評価の理由(区)

①・母子健康手帳交付時・両親教室・こんには赤ちゃん訪問・育児教室・乳幼児健診等や、日々の訪問などの機会を利用して、拠点の様子や雰囲気も含めて積極的に案内した。また子育て支援関係者に対しては、主任児童委員連絡会やこんには赤ちゃん訪問定期例会などで拠点の紹介を行った。  
・乳幼児健診や子ども・家庭支援相談等で、親子で遊びに行ける場所の相談があった場合、拠点を案内した。

②・訪問や相談等で、双胎児や外国籍、発達の遅れ等の個性の高い相談があった場合は、拠点で実施する各交流会への参加を促した。

③・乳幼児健診や個別支援の必要な対象者、地域のサロンや支援者から把握した子育て世代のニーズや課題を定例会で共有した。

④・居心地の良い雰囲気づくりや、安全面を考慮した環境整備など、拠点は独自に工夫ができており、区は相談があった時に対応し、確認しながら取り組んでいる。  
☆「拠点に行くことが困難な人に向けた、アピタの「金沢区気軽に子育て相談」は、令和2年3月よりコロナ対策のため休止中だが、「出張とどことこ」やオンライン配信を実施している。  
・令和元年度までは、育児教室の外遊びの回と拠点が実施する「お外で遊ぼう」の日程を合わせ、育児教室参加者に外遊びの大切さだけでなく、次につながる機会をつくっている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・利用者の状況やペースを尊重し、丁寧に関わる事で、職員と利用者との信頼関係を築くことができています。  
・多様性を認め合うひろばとなるよう意識した運営を行っている。「みんなが同じ空間」にられる事を大切にしている一方で、休館日を利用した「個別性」も大切にしている。  
・アピタ「金沢区気軽に子育て相談」や「お外で遊ぼう」を実施することで、どことこに来られない方々に向けて、相談対応や情報提供をおこなっている。令和2年度からはオンラインで参加可能なイベントを実施している。どことこの認知度も上がり、目指して来てくれる方も増えてきた。

(課題)

・親自身の育ちとして、自身の子以外の育ちにも目を向けられたり、いずれは地域での担い手として成長できるよう力をつけていけるような関わりが必要。職員が利用者との関わりの中でどこまで力を引き出すことができるかが課題である。  
・多様な親子を受け入れるにあたって、瞬時の判断やチームワークなど、拠点のスタッフのスキルアップが求められている。  
・拠点やひろばから遠い地区の方に向けての居場所づくりをおこなっている。

振り返りの視点

- イ いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- ウ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- エ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区でも家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学び機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・合同研修は広場のニーズを聞きながら実施することができた。より積み上げる形で内容を工夫できると良い。 ・区との継続した支援についてギャップを埋めるために、カンファレンスの有効活用も含め、今後の情報共有を密にしていける必要がある。(カンファレンスの運営方法の改善等)	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

	H29	H30	R元	R2
ひろばでの相談	1,884	1,311	1,239	1,321
専門相談	432	419	282	102

※専門相談は助産師、小児科医、保育・教育コンシェルジュ、保育士、栄養士、薬剤師、発達等。コロナ禍のためR2は相談内容を限定して実施。

①【利用者との信頼関係に基づく相談対応】  
 ・ひろば職員は利用者の利用頻度や来所した時の様子を察しながら距離感を大切に、信頼関係を築くように努めている。ひろばで相談を受けた際は、利用者に寄り添い傾聴の姿勢で対応できるよう心がけている。  
 ・子育てに関する不安や困り事の相談を受けた際は、職員や他の利用者同士の対話によって不安が軽減できるよう努めている。  
 ・専門家相談日を設けることで養育者の不安の軽減及び職員の相談対応スキルアップにつながった。  
**【多様な利用者に対応できるよう日々の振り返りでの情報共有と定期的な職員研修の実施】**  
 ・日々の振り返りの中で、ひろばの様子、相談対応に加え、横浜子育てサポートシステムのコーディネートの様子や横浜子育てパートナーの相談内容についても共有し、相談者を多角的にとらえ、多様化する相談ニーズに対応できるようにチームとして取り組んでいる。職員体制が変わった時点で改めて、ひろば相談からパートナー相談につながるタイミングについて確認した。  
 ・同法人が運営している、中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」や金沢区内にある「親子のつどいのひろば」との合同研修を定期的に開催。研修テーマに関しては振り返りの様子やつどいのひろばとの協議により決定し、日々の業務に活かしている。

②【拠点の役割(つなぐ)を踏まえた関係機関との連携】  
 ・区と定期的に「相談共有会議」を開き、相談内容の共有と対応についての確認をおこなっている。  
 ・ひろばでの相談対応に活かせるよう、保健師による講話(ワポイント育児アドバイス)をおこない、職員の共通理解をおこなった。  
 ・関係機関(主任児童委員連絡会、幼稚園園長会、保育園園長会等)には定期的に参加し、顔のみえる関係を継続している。  
**【親同士のピアサポートによる対応】**  
 ・「発達に不安のあるママ同士で話しましょう」、「ふわふわ(個別支援学級に通うママ同士で話しましょう)」、「こまーの会(口唇口蓋裂のお子様を持つ親の会)」、「食物アレルギーの会」(R2年度発足)などを通じて、当事者同士の分ち合いや情報共有の機会となっている。

評価の理由(区)

①・定例会や相談共有会議の場を利用し、拠点での相談内容の共有を行い、対応方法や情報提供等の助言を行った。  
 ・拠点職員向けの講話(乳幼児健診、感染症、養育支援など)を行い、相談対応のスキルアップを図った。  
 ・母子手帳交付時、両親教室、育児教室、こんこちは赤ちゃん訪問などの機会を利用し、拠点の相談機能について周知を行った。  
 ②・拠点で相談のあった継続支援が必要な人が、区保健師や社会福祉職、区の事業につながるができるよう、相談共有会議や電話等で各地区担当と密に情報共有し、役割分担を確認しながら個別支援を行うことができた。  
 ・相談共有会議がより有意義な時間となるよう、対象者について、事前に区での関わりや情報を調べてから会議に臨んだ。

拠点事業としての成果と課題

(成果)  
 ・利用者との日常的な関わりの中で、個々への距離感を大切にしながら相談対応に努めた。相談をきっかけに他の利用者同士をつなぐ場合もあり、職員や他の利用者同士の対話によって不安が軽減できた。  
 ・区との相談共有については、共有の仕組みを明確にし、より連携しやすい環境となった。  
 ・日々の振り返りの中で、ひろば相談だけでなく、横浜子育てサポートシステムや横浜子育てパートナーの状況も共有することでチームとして対応し、拠点全体の相談対応のスキルがあがった。  
 ・「発達に不安のあるママ同士で話しましょう」の参加者の声から新たに「ふわふわ(個別支援学級に通うママ同士で話しましょう)」が立ち上がった。参加者のニーズに応え、継続した支援につながっている。  
 (課題)  
 ・社会や子育てに関する現状の変化に対応できるよう、常日頃から最新の子育ての情報を職員が共有しておく必要がある。  
 ・養育者や子育てに関する社会の状況が変化の中で、職員の相談の姿勢として、傾聴、共感だけではなく対応の必要性を感じる。  
 ・利用者アンケートで「不安や悩みが解消に繋がった」と回答した人が72%と高い数値であるが、一方で4人に1人は解消につながっていないと考えられるため、そうした利用者どう把握し、継続支援をしていくのが課題である。

振り返りの視点  
 ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。  
 イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。  
 ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。  
 エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。  
 オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。  
 カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・身近な情報発信の課題があり、ホームページやメールマガジンを充実させる必要がある。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。	・キラキラMAPの編集は拠点が中心となれどよい。 ・子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民全体に認知されるよう工夫する。	A	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)  
**【とことこホームページビュー数の推移】**  
 H28年度 61,614件 / H29年度 72,495件 / H30年度121,270件 / R元年度109,390件 / R2年度89,743件  
 ●ブログ閲覧数(R元年10月より開始) R元年度4,964件 / R2年度20,413件  
**【主なホームページリンク先】**  
 区役所の子育て情報/親と子のつどいのひろば(4ヵ所)/地域ケアプラザ(9ヵ所)/地区センター(5ヵ所)/コミュニティハウス(9ヵ所)/りんごの森/国際交流ラウンジ/発達に不安な親子の居場所(3ヵ所)/金沢区ママ/ママが真ん中プロジェクト/スポーツセンター/スポーツ会館(2ヵ所)/金沢動物園/子育てタクシー  
**【メールマガジン】**  
 毎月1回 平均950通配信⇒R2年8月よりLINEへ移行 LINE登録者数R2年3月532件  
**【とことこ通信】**  
 2カ月に1回発行。4500部印刷。約180ヵ所に郵送や手渡しにて配架。/配架場所-区内保育園、区内幼稚園、区内病院、区内地域ケアプラザ、区内地区センター、横浜市内の子育て支援拠点、区内つどいのひろば、金沢区役所、こども青少年局、J:COM、町内会、子育て支援者、区内商業施設、主任児童委員

①【とことこホームページの見直しと活用】  
 ・区と協議をしながら、とことこホームページを大幅にリニューアルした。区内の子育てに関わっている相手先のホームページにリンクを貼ったことで、利用者が最新かつ正確な情報が得やすくなった。また、R元年10月よりブログ開始。ホームページビュー数が確実にアップした。  
 ・コロナ禍におけるとことこの対応をホームページのトップページに大きく掲載。「お知らせ」も活用し、常に最新情報を伝えるよう努めている。また、地域の子育てサロンの休止情報の連絡をいただきホームページの活用につながった。  
**【コロナ禍におけるオンラインを使用した取り組み】**  
 ・来所困難な方へ向けて「ふわふわ」「にこま〜るの会」のオンラインでの語り合い、YMCA保育園の子育てサロンの上映、「みんなdeストレッチ」「タッチケア」「教えて♡土谷先生オンラインおしゃべり会」はひろばとオンライン同時開催を行った。また、職員の会議・研修でもオンラインの活用が進んだ。  
**【とことこ通信やメルマガ・LINEによるタイムリーな情報提供】**  
 ・こども家庭支援課だけでなく、健康づくり係や地域振興課など、他課と直接情報共有をしていることで、とことこ通信への情報掲載もスムーズに行え、タイムリーにひろばの掲示ができ、利用者への周知や啓発につながっている。  
 ・とことこ通信は年間を通してのテーマを決め、隔月の巻頭ページを作成することで、一貫性のあるメッセージを届けることができている。  
 ・とことこ通信と一緒にイベント情報も同封し、受け手が必要としている情報を拠点以外の各所でピックアップできるようにしている。  
 また、メルマガのイベント情報は配信後も随時更新。R2年8月よりLINEへ移行後は配信回数も増え、常に最新情報が閲覧できるように引き続きリンクを貼っている。

**【利用者が必要としている情報を見つけやすいようなひろばの情報掲示の整理と工夫】**  
 ・点在做りたひろばの掲示を、カテゴリ別に整理し掲示したことで、利用者が情報を見つけやすくなった。また、最新の情報を掲示する場所を別途作り、リアルタイムの情報を入手しやすくなった。必要時には職員が仲介し、利用者がその時々で必要な情報を得られるようにサポートしている。  
 ・区役所の乳幼児健診で配布している子育てに関する資料を拠点用にファイリングすることで、ひろばで相談に応える際に活用できるようにしている。  
 ・発達に関する資料をファイリングして広場で見ることができるようになっていたが、ファイルを手取るハードルの高さからひろばに掲示する方法に変更した事で、常に見られるようになった。それによって、職員への気軽な問い合わせが増え、発達の会へのつながりがスムーズになった。  
 ・幼稚園とのネットワークが深まった事で、幼稚園情報の充実ができています。また、職員が地域に外向き、得られた情報をとことこホームページやひろば等で広く発信している。  
**【キラキラMAPの見直し】**  
 ・キラキラMAPは拠点と区で役割分担しながら、協働で編集を行い、発行している。掲載内容について定期的な協議をしながら、養育者の目線に立った紙面構成とした。

②【拠点の情報機能の認知度アップによる情報の充実】  
 ・地域や関係機関に対し、拠点の情報提供機能について周知し続けている。結果、保育園、幼稚園、地域等からの掲載依頼が増え、とことこホームページのイベント情報が充実、ページビュー数増につながった。  
 ・子育て応援リーダーが訪問したサロンや保育園の子育て支援の様子をブログに掲載。足を運ばなくても地域や子育ての情報が得られる様、情報発信を強化した。LINEからもブログ閲覧が可能になり、より親しみやすい形で情報を届けることが出来ている。

**【緊急事態宣言下のひろば休止中の取り組み】**  
 ・緊急事態宣言下のひろば休止中でもとことこを感じていただけるよう「離れていてもつながろうプロジェクト」を実施。ブログを活用し、ひろばや職員の紹介、利用者には「おうち時間なにして？」の投稿をしていただき、自身の経験を伝えるツールとして活用してもらう事ができた。  
 ・来所困難な方へ向けての「ふわふわ」「にこま〜るの会」のオンラインでの語り合い、YMCA保育園の子育てサロンの上映、「みんなdeストレッチ」「タッチケア」「教えて♡土谷先生オンラインおしゃべり会」はひろばとオンライン同時開催を行った。また、職員の会議・研修でもオンラインの活用が進んだ。  
**③【利用者が情報発信の担い手になるしかけづくり】**  
 ・「利用者掲示板(※1)」「ロコミファイル(※2)」「ゆずりますコーナー」(※3)等、利用者が情報発信、間接的に繋がるしかけづくりを行った。※1テーマごとに利用者のアイデアを掲示 ※2ひろば相談で多い、「地域の病院情報」「離乳食のアイデアレシピ」「幼稚園口コミ情報」等について、利用者からの情報をファイリング ※3ご家庭で不要になった育児グッズ等を他の利用者に譲れるよう掲示。

評価の理由(区)

①・区内の子育て情報が集約されたキラキラMAP(金沢区子育て情報誌)は拠点と区で役割分担しながら、協働で編集を行い、発行している。  
 ・キラキラMAP編集時に、保育園・幼稚園情報を一括で収集し、まとめた情報を拠点に提供し、必要な人に情報が届く仕組みづくりをした。  
 ・区の情報も掲示のひろばでの掲示やホームページ等に掲載している。  
 ・拠点がより多くの情報を収集できるように、関係機関の会議へ参加するための調整をしている。  
 ・とことこ通信は、毎回発行前に区でも校正確認し、時に掲載記事の提供をしている。  
 ・感染症等、養育者へタイムリーに情報を提供できるよう協力している。  
 ②・こんにちは赤ちゃん訪問や母子訪問、乳幼児健診や育児教室、各会議等、様々な機会に、拠点で子育てに関する情報を得られることを周知した。また、区役所でもとことこ通信を配架した。  
 ・地域のイベント情報を知りたいという相談があった場合は、イベントカレンダーや拠点に情報があることを伝えている。  
 ③・拠点ホームページで情報発信できることを、子育てサークル交流会や地区別健やか交流会の場で、地域の子育て支援関係者や養育者へ周知した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)  
 ・拠点内での情報の掲示、配架の工夫、ネットワークにより収集できた情報を利用者にわかりやすく発信できた。  
 ・地域や関係機関からの情報掲載依頼が増え、ホームページビュー数も増えた結果、拠点の認知度も上がってきている。  
 ・ホームページやLINE等の手軽な情報提供と、紙媒体をもとにしたアナログの手法の両輪で周知が行えている。  
 ・横浜子育てパートナーと幼稚園、地域の関係施設とのつながりにより、情報が充実してきている。  
 ・区実施アンケートによると、拠点の利用目的のおよそ4割が「子育て情報の入手」である。  
 (課題)  
 ・利用者による情報提供の仕組みづくりは着手しているが、利用を促す工夫が必要。  
 ・養育者等へ同じ情報を伝えられるよう、区と拠点で共有していく必要がある。

振り返りの視点

ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。  
 イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。  
 ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。  
 エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。  
 オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。  
 カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。  
 キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・ネットワークを生かして関係機関や支援者同士の関係をさらにつないでいくことが必要。 ・拠点スタッフ間、拠点と区とのネットワークに対するイメージのズレをコミュニケーションで埋めていくことが必要。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>(主なデータ)</p> <p>【子育て応援リーダーによる地域訪問 R2年度9月～3月】 子育てサロン訪問 25ヶ所、保育園訪問 6ヶ所、保育園商業施設イベント訪問 3ヶ所、地域CPイベント協力 2ヶ所、子ども食堂 3ヶ所、親子のつどいのひろば 4ヶ所、子育てサロン 24ヶ所</p> <p>【会議出席】主任児童委員定例会、公私合同園長会、幼稚園園長会、要保護児童対策連絡会、学校・施設との連絡会、分娩取り扱い連絡会</p> <p>【健やか子育て連絡会構成メンバー】民生委員児童委員、主任児童委員、保健活動推進員、子育て支援者、幼稚園、保育園、地域ケアプラザ、親子のつどいのひろば、養育者代表、地域子育て支援拠点</p> <p>【いきいきフェスタ(H30年度)】ぼたんちゃんこどもエリア 健やか子育て連絡会ブース来場者数 800人以上</p> <p>【外遊び応援キャンペーン(H30年度)】 参加人数:182組 (23回)</p>			
<p>①【金沢区の子育て支援ネットワーク事務局を担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健やか子育て連絡会の事務局の役割を区、区社協、拠点3者で担っている。事務局の中の拠点の役割として研修会、いきいきフェスタ、外遊び応援キャンペーンを開催した。</li> <li>・R2年度はコロナ禍の為、外遊び応援キャンペーンについては「外遊び情報一覧」のちらしを作成し、配布した。</li> <li>・健やか地区別交流会で施設長とともに拠点職員も同席し、地域のニーズや課題を共有した結果、区内のつどいのひろばと共催で「外遊び応援キャンペーン」を実施。地域ぐるみでの子育て支援の輪が広がった。さらに、健やか子育て連絡会で上がったニーズ「外遊び」をテーマとした講演会&amp;シンポジウムを金沢区制70周年事業として実施し、広く区民に向けて外遊びの大切さを伝えることができた。また、R2年度健やか子育て連絡会委員、関係者に対して、健やか子育て連絡会アドバイザー久保健太先生による講座を実施。参加者のスキルアップにつながった。</li> <li>・金沢区民まつり(いきいきフェスタ)の「健やか子育て連絡会ブース」を実行委員会形式で出展。実行委員会事務局の役割を担っている。実行委員の方々と企画・当日の運営を行い、お互いの関係性がより深まる機会となった。当日は、親子向けのエリアとして、保育園・主任児童委員のブースと協力し、ぼたんちゃんこどもエリアの運営を行った。</li> <li>・R2年度はコロナ禍の為にいきいきフェスタや、その他、様々なイベントが中止となった。そのような状況下、感染症対策を講じ、つどいの広場、区役所との共催による「打楽器コンサート」を金沢公会堂にて開催。自粛生活が続く先の見えない不安を抱える中、親子で楽しめるイベントとなり、好評を得た。また、多くの子育て世帯に向けて情報提供の場となった。</li> </ul> <p>【法人変更にもとまう、地域とのネットワークの再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度は施設長、2年目は職員が地域のサロンを訪問。地域の様子を知らると共に、支援者との顔の見える関係を構築した。特に幼稚園との関係づくりの成果として、「はじめまして♡幼稚園(幼稚園説明会)」を拠点で開催できた。</li> <li>・年度初めに地域ケアプラザコーディネーター会議で挨拶し、横浜子育てサポートシステム、横浜子育てパートナー、子育て情報の発信について説明し、それぞれ連携を行っている。</li> <li>・R2年度子育て応援リーダー交代。地域の子育て支援の状況を知る事を中心に地域へ足を運び、主任児童委員、民生委員・児童委員、ボランティア、地域ケアプラザ・つどいのひろばの職員等、地域の方との信頼関係を構築し、活動の幅を広げている。</li> </ul>			
<p>②【拠点が地域の入口・地域から拠点へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援リーダーが地域のサロン、幼稚園、関係機関などに足を運ぶことで、それぞれの特色、雰囲気や参加者の様子などを拠点のブログを通して伝えている。また、地域訪問先で出会った拠点へ足を運んだことがない親子や地域の子育て支援者へ向けて、その場で拠点の状況を伝えることができ、拠点を知るきっかけとなっている。</li> <li>・地域の様子を捉え、拠点職員全体に伝えることで、拠点利用者が地域を知るきっかけとなるよう、橋渡しをしている。</li> <li>・拠点の事業を地域で活動している養育者と一緒に行い、興味のある利用者をグループに紹介し活動の輪が広がった。「(多文化ママ交流会)」「ふわふわ(個別支援級に通うママ同士ではなしましょう)」</li> </ul>			
評価の理由(区)			
<p>①・健やか子育て連絡会の事務局として、子育て支援に関わる方々と、課題や現状を共有する場の運営、課題解決に向けた取り組みを連携して行った。また、地区別健やか子育て交流会で出た意見や課題から、研修会や外遊びキャンペーンなどを協働して企画、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢区の障害者地域自立支援協議会のメンバーに拠点が入るよう調整し、区内の障害児支援に関わる方々とのネットワークづくりを行った。</li> </ul> <p>②拠点利用者が保育園情報を得やすくなるため、区の育児支援保育士が保育園情報を集約し拠点に提供している。また幼稚園においても、園長会への参加や保育・教育コンサルジュが拠点職員とともに幼稚園を訪問し、拠点と幼稚園の関係づくりを後押ししている。</p>			

拠点事業としての成果と課題
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健やか子育て連絡会での役割や地域訪問等により、地域とのネットワーク構築が進んだ。</li> <li>・幼稚園との関係づくりにより、拠点内で「はじめまして♡幼稚園(幼稚園説明会)」を開催できた。</li> <li>・関係機関との顔の見える関係作りを構築し、お互いの役割を理解しながら関わることができた。</li> <li>・地域の情報が集まりやすくなり、利用者へ身近な情報を提供できるようになった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点と地域や関係機関との双方向のネットワークを深めるとともに、地域や関係機関の方が拠点事業の発信者となってもらえるような取り組みを構築していく。</li> </ul>

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。
- イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。
- オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧を受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・ボランティア養成講座を受講した人たちを、広く地域につなげる。 ・これから子育て当事者となる方たちへの働きかけとしては、拠点と区がさらに連携していけると良い。 ・日々の事業の中で、人材育成や活動支援につながる要素は多くあるので、意識しながら事業展開していく。	A	B
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)	H29	H30	R元	R2
健やか子育て連絡会研修会・講演会	83人	320人	108人	99人
ボランティア活動件数	186件	271件	214件	-
ボランティア説明会(登録者数)	-	18(14)人	10(5)人	-
学生受入人数	66人	70人	106人	62人
プレババ・プレママ教室	152組	166組	156組	154組
タッチケア	111組	102組	95組	34組

★R2年度はコロナ禍の為、ボランティア受入れを休止、タッチケアは人数制限を行い実施。

①【地域の担い手や養育者のニーズに合わせた勉強会・研修会の実施】  
 ・健やか子育て連絡会で課題としてあった「外遊び」をテーマとした研修会・シンポジウムを開催した。外遊びに関しては、区内のつどいのひろばと共催で「外遊び応援キャンペーン」を実施。地域ぐるみでの子育て支援の輪が広がった。(再掲)  
 ・健やか子育て連絡会のテーマに合わせた研修会を開催し、支援者のスキルアップにつながった。(R元年度「子どもたちがお互いに、愛おしい、すごいと思える瞬間!」(宮里睦美先生)／R2年度「支援者もママも元気になる5つのポイント」(久保健太先生)  
 ・横浜子育てサポートシステム提供会員向け「緊急救命講習会」にひろばのボランティアにも呼びかけ参加につながった。  
 【支援者の質の向上に向けた取り組み】  
 ・親と子のつどいのひろばと定期的にミーティングを開催し、情報や課題の共有をおこない、職員の質の向上に努めた。  
 【ボランティア活動を支える継続したフォロー】  
 ・ひろばボランティアの方が生き生きと活動できるよう、職員は日々の声かけと配慮を欠かさずに行っている。  
 ・公園サポーターがスムーズに活動できるよう、定期的に連絡をとり、備品(シャボン玉や牛乳パックのジャバラなど)や配布物の確認やシフト調整を行っている。また、当日は、定期的にスタッフが現地に出向き、話を聞くことで、それぞれの公園の状況を把握し、活動が順調に進むよう支援している。  
 ・公園サポーターの定例会を年4回開催。日頃の活動について共有や相談をする事でそれぞれの活動に活かされている。  
 ・R2年度はコロナ禍での開催の為、公園サポーターが安心して活動できるよう、再開に向けての話し合いと、当日を含めた活動フォローを継続しておこなっている。  
 ②【子育て応援ボランティア説明会によるボランティアの入口と地域の方々へ拠点にどうつどい創出】  
 ・ひろばの見守り、公園サポーター、横浜子育てサポートシステム提供会員の3つの活動を紹介する「子育て応援ボランティア」説明会を毎月開催し、ボランティア増員につながった。地域で活動されている方々に拠点で活動を披露してもらった機会を設けた事により、地域の方が拠点に足を運んでいただくきっかけとなった。  
 ・コロナ禍でのひろば運営において、ボランティアの方々の安全を守るため、ひろばでのボランティア活動を休止した。  
 【子育てサークル活動を通じた地域へのつながり】  
 ・サークル活動を通じて、養育者自身が地域で活躍できるよう応援している。また、子育てサークルリーダー全体会、地区別交流会で活動の課題を共有し、解決に向けた情報交換をすることで、子育てサークル活動の継続を支援している。  
 ・コロナ禍でサークル活動が十分にできない状況ではあったが、お互いの情報共有の場として、オンラインで近況報告会を実施した。  
 ・地域で活動している養育者の情報をひろばの掲示やホームページで発信している。  
 ③【地域で子育てのニーズや課題を共有】  
 ・健やか地区別交流会や地域の会合などを利用して、養育者の現状や子育ての課題などを共有している。R2年度は「子育て実態調査」をもとに、金沢区子育て支援の「協働の指針作成」に向けた話し合いをおこなった。  
 ・いきいきフェスタ(「金沢区民まつり」)で、子育て関係のブースが連携し、子育て家庭が安心して過ごし楽しめる工夫や、地域全体が子育て家庭を応援していることが伝わるよう子育て支援の取り組みの周知を行った。  
 【学生の定期的な受入・シニア世代のボランティアとの自然な交流】  
 ・中高生の職業体験やボランティア、学生の実習の受入を積極的に行っている。又、シニアボランティアの受入も継続して行っており、自然な形で多世代交流が生まれている。  
 ④【プレババ・プレママへの支援】  
 ・プレババ・プレママ教室を月2回定期的に開催。山本助産院協力のもと、助産師による沐浴指導、妊婦体験、抱っこや着替えの練習をおこなっている。加えて、同時開催しているタッチケア参加者との交流の時間を設けている。グループに分かれて、先輩ママ・パパの話を聞いたり、実際に赤ちゃんを抱っこしたり、会の最後には、プレババとプレママに分かれて体験談を聞くことで、出産・子育てのイメージづくりや不安を解消する場にもなっている。  
 ・コロナ禍により、R2年6月より会場を区役所に変更。病院での両親教室が軒並み中止となっている中で、産前産後の不安軽減につながる一助となっている。

評価の理由(区)
①・健やか子育て連絡会の全体会・研修会・地区別交流会において地域の課題を共有し、方針の検討を通して子育て支援の担い手の意向上やスキルアップにつながるよう支援した。
②・子育てサークルの交流会(全体会・地区別)を拠点・区・子育て支援者とともに開催し、子育てサークルリーダー同士がつながり、活動の幅が広がるよう支援を行った。また、育児教室等で子育てサークル周知の場を設けた。 ・拠点と区で区社会福祉協議会のボランティアセンターに行き、ボランティア募集についての説明を行い、チラシを配架した。子育て支援のボランティアに関心のある人を拠点につなげた。 ・「ことこひろば」「公園サポーター」「横浜子育てサポートシステム提供会員」のボランティア募集について、広報よこはま金沢区版で周知を行い、その結果、問い合わせが増加した。
③・民生委員や保健活動推進員の定例会の日程を伝え、拠点が一緒に参加できるよう調整を行った。 ・金沢区の子育ての現状や課題を、各地区の民生委員や保健活動推進員の定例会、健やか子育て連絡会地区別交流会の場で伝えている。 ・H28年度からR元年度までいきいきフェスタで、子育て関係のブースが連携し、子育て家庭が安心して過ごし楽しめる工夫や、地域全体が子育て家庭を応援していることが伝わるよう子育て支援の取り組みの周知を行った。
④・プレババ・プレママ教室は、コロナ対策のため会場を区役所へ変更して実施している。 ・母子健康手帳交付時に、プレババ・プレママ教室についての周知を行った。また、母子保健コーディネーターがプレババ・プレママ教室の見学、拠点スタッフが両親教室で拠点の周知を行い、相互の理解と連携を深めた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)  
 ・健やか子育て連絡会の全体会・研修会・地区別交流会において、地域の課題を共有し、方針の検討を通して担い手の意欲向上につながった。  
 ・毎月「子育て応援ボランティア説明会」を実施し、ボランティアの増員に繋がった。利用者としてシニアボランティアとの多世代交流が自然な形で生まれている。また、地域で活躍される方々に拠点で得意なことを披露してもらうことで、地域の方々へ拠点に足を運ぶきっかけとなった。更に、つどいのひろばと協力し「外遊び応援キャンペーン」を実施した事で子育て支援の輪が広がった。

(課題)  
 ・地域子育て支援事業アンケートで、拠点でボランティア募集をしていることを知らない人が92%であり、区事業内や広報等で伝えていきたい。  
 ・コロナ禍により休止しているひろばボランティア活動に関しては、安心・安全の環境整備を行い、再開にむけての取り組みを行っていく必要がある。  
 ・子育てサークル数が減少しており、地区別交流会で各子育てサークルの課題を共有し、子育てサークルの継続について共に考えていく必要がある。サークル支援に関しても、現況に合わせた方法を検討していく。  
 ・拠点を利用し満足している人は、ボランティア活動に「自分の子育てが落ち着いたら参加したい」と回答している人がやや多くなっていることから、まずは拠点を利用してもらい、満足してもらえるよう心掛ける。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- エ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- ウ 活動希望を丁寧を受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す視点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・入会説明会や事前打ち合わせでお話し預かりを周知し、ひろばで双方が安心して利用できる工夫をする。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。	・活動件数を増やす必要がある地域では、利用会員増を見込める企画を行い、提供会員を増やす必要がある地域では積極的に周知をする。	A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		B	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

	H29	H30	R元	R2
活動件数	3666	3724	3133	1629
援助活動を利用した延べ人数	606	612	618	321
援助活動をした提供会員延べ人数	515	523	445	252
会員数	利用会員	447	476	525
	提供会員	118	129	105
	両方会員	35	31	23
	合計	600	636	653

①【地域特性を活かした周知活動と区との連携による計画的な周知活動の両輪】

- ・提供会員の高齢化が進む並木地区や、提供会員数が少ない六浦地区を中心に提供会員増を目指し、エリアを絞って周知活動をおこなった。特に、並木地区は地域の方が横浜子育てサポートシステムの良さを理解してくださり、自主的に入会説明会の計画をし、開催できている。
- ・区と連携し、小中学校校長会・PTA連絡会での周知を定期的に行った結果、区内6校にチラシを全生徒数配布する事ができた。
- ・PTA連絡会へチラシを配布したことで、提供会員になりたいと問い合わせがあった。
- ・地域ケアプラザからの繋がり、幼稚園で全園児に向けてチラシを配布する事ができた。また、同幼稚園からの要望を受け、先生方を対象に、入会説明会を開催することで、制度を知っていただくことができた。それにより、先生から園児の保護者に向けて正しい情報を伝えるようになった。
- ・地域ケアプラザからの繋がりで、幼稚園で全園児に向けてチラシを配布する事ができた。また、同幼稚園からの要望を受け、先生方を対象に、入会説明会を開催することで、制度を知っていただくことができた。それにより、先生から園児の保護者に向けて正しい情報を伝えるようになった。
- ・広報よこはま金沢区版に横浜子育てサポートシステムの記事を掲載した。
- ・金沢区移動情報センターの通信に横浜子育てサポートシステムの案内を掲載した。

②【ひろばや商業施設での養育者に向けたPR・状況に合わせた個別対応】

- ・商業施設(以下アピタ)や、育児教室、子育てサロン等、養育者が集まる場所での周知を行っている。実際の利用について等、詳しく説明を行った。また、緊急に支援が必要な場合は、事情に応じて、都度こまやかに対応し、スムーズな利用につなげている。
- ・本部移管により入会登録までが迅速にできるようになり会員の利便性につながった。

③【横浜子育てサポートシステム本来の意義を伝え続けることと会員活動を支えるきめ細やかなフォロー】

- ・制度の入口である「入会説明会」において、横浜子育てサポートシステムが「地域の支えあい」であることを説明。事前打ち合わせには全てコーディネーターが同席し、提供会員・利用会員双方が不安がないように、細かな事も確認。双方の信頼関係づくりを丁寧に行っている。
- ・区の要支援家庭のサポートをしている提供会員には、定期的に連絡を取り合い、提供会員の精神的な負担にならないよう配慮している。
- ・親と子のつどいの広場で行っている一時預かりと横浜子育てサポートシステムの預かりを連携させることにより、より利用者のニーズに応えられている。
- ・こども家庭支援センター(さくらの木)とひろばとの連携により、母子分離の難しい親の預かりがひろばにて実現した。
- ・金沢区移動情報センターとの連携により、お互いのできない部分を補いながら活動につながった。
- ・コロナ禍での活動において、会員同士の気持ちを聞き取りながら活動の調整を行った。また、実際の活動も検温や手指消毒、お互いに体調のすぐれない時には活動をキャンセルすることを前提とした。
- ・全会員対象の交流会を定期的で開催している。利用会員にとっては、提供会員と知り合う機会となり、提供会員にとっては、活動の情報交換をする場となっている。

【横浜子育てサポートシステムを通じた地域活動への広がり】

- ・提供・両方会員交流会の際に、区内の障がい児を対象としたボランティアを紹介したところ、実際の活動へとつながった。

- ④【区や関係機関と連携した家族支援】
- ・毎月の区との会議で定期的に横浜子育てサポートシステム利用会員の家庭状況を共有。必要に応じて区が把握している状況をもとにコーディネートを行った。また、継続サポート中の親子の状況についても都度確認をしながらサポートを行っている。
  - ・横浜子育てパートナーや母子保健コーディネーターとつながったケースもあり情報共有しながらサポートを行っている。
  - ・こども家庭支援センター(さくらの木)と区と三者で連携を取りながら親子を見守っている。
  - ・こども家庭支援センター(さくらの木)の職員に向けて入会説明会を行い、職員に理解を深めてもらうことで、よりよい支援につながった。
  - ・両方会員から地域の虐待が疑われるケースに関する相談を受け、連絡先の情報提供をした。合わせて、区にも情報提供を行った。
  - ・要支援家庭のサポートについては、区と連携をとりながら、児童相談所・学校・放課後児童クラブとそれぞれの役割を整理しながら継続支援している。

評価の理由(区)

- ① 拠点が小中学校校長会・PTA連絡会で横浜子育てサポートシステムの周知ができるよう調整を行った。
- ② 母子手帳面接、両親教室、乳幼児健診や育児教室、こんには赤ちゃん訪問の場面を活用し、養育者へ横浜子育てサポートシステムを周知するとともに、事前登録を呼びかけすることで、必要な時に早くサポートにつながるようになった。
- ③ 子育てサポーター定例会に参加し課題の把握につとめ、拠点が会員に適切なサポートができるよう助言を行った。また横浜子育てサポートシステムコーディネーターの負担が大きくなりすぎないよう助言や支援を行った。
- ④ 専門的対応や配慮が必要なサポートに対しては、地区担当の保健師や社会福祉職が連携して、提供会員が安心してサポートを継続できるよう拠点到助言した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・日々の振り返り、ひろば・横浜子育てサポートシステム・横浜子育てパートナーの情報共有を行っていることで、横浜子育てサポートシステムの状況についても職員全員で共有。今まで以上に横浜子育てサポートシステムについての理解が深まり、ひろばでの周知に繋がった。
- ・コーディネーターが事前打ち合わせに全件同席した事と、きめ細かくコーディネートする事で、提供会員・利用会員双方の継続的なサポートにつながった。
- ・横浜子育てサポートシステムが支援の入口となった利用会員について、区と情報共有し、家族支援につながっている。
- ・特に支援が困難な家庭のサポートに関しては、定例会の場で、区と横浜子育てサポートシステムのそれぞれの見立てを共有し、早期の支援につなげることができた。

(課題)

- ・問題を抱えている家庭の支援について、複数の問題が整理されないまま横浜子育てサポートシステムを紹介されるケースがある。公的支援を受けられない家庭をどう支援していくか協議していく事が課題である。
- また、実際にサポートを行っている提供会員が、地域住民として、どの程度の関わりをもつのかも大きな課題である。
- ・最初にサポートが必要である状況を区が把握して横浜子育てサポートシステムに依頼する場合、横浜子育てサポートシステムに依頼する内容と区で支援する内容について整理をしたうえで、横浜子育てサポートシステムにつなぐ必要がある。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていないか。

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・地域の中や拠点の中で横浜子育てパートナーとして役割をどのように担っていくか、区と密に連携をとって検討していく必要がある。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育てで支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)  
**【主な訪問先】**  
 親と子のつどいのひろば(区内4か所;以下「つどいのひろば」)、子育て支援者会場(7か所)、「発達に心配のあるお子さんとご家族のための子育て応援マップ掲載団体(13か所)、金沢養護学校、金沢国際交流ラウンジ、かもめ教室親の会、青少年の地域活動拠点「カナカツ」、里親スキルアップ研修、LITALICOライブ、神奈川県立こども医療センター、横浜医療福祉センター、区内児童発達支援事業(3か所)、地域子育てサロン(36か所)・育児教室、幼稚園(14園)、区の事業(乳幼児健診・母親教室・離乳食講座・親子教室)・児童家庭支援センター、病児保育室、訪問看護事業所、放課後等デイサービス・区社協移動情報センター  
**【相談件数の推移】**  
 H29年度 531件 /H30年度 649件 /R元年度 493件 /R2年度 206件  
**【横浜子育てパートナー認知度】**  
 拠点利用者アンケート「横浜子育てパートナーについて知っていますか?」(H29年度38.5%→H30年度43%)

**①【あらゆる機会や媒体を活用した周知】【ひろは職員からの正しい情報による周知】**  
 ・「横浜子育てパートナー専用チラシ」を作成し、地域の子育てサロン・育児教室、などあらゆる機会でも周知している。また、金沢区子育て情報冊子「キラキラマップ」、とことこホームページ、とことこ通信での横浜子育てパートナー特集などの媒体も活用。新規利用者への対応や拠点事業の中で職員から直接利用者支援事業の説明をしている。地道な周知活動の結果、拠点での認知度もあがった。  
 ・拠点休館中、タウンニュースや拠点ブログを活用し、パートナーの周知に努めた。

**②【横浜子育てパートナーだけでなく拠点職員がチームとして支援】【関係機関との迅速な情報共有】**  
 ・相談後、親子をひろば職員につなげた後は、横浜子育てパートナーと職員との信頼関係から、親子を見守り、養育者と職員、養育者同士の関係に広げていけるように、後押ししている。  
 ・養育者が横浜子育てパートナーに相談をしている間、安心してゆっくり相談できるよう子育てひろば職員が見守っている。予約が入っている方に関しては、朝のミーティングで職員に情報共有し、体制を整えて対応している。また、日々の振り返りでは相談内容や子どもの様子を職員間で共有。多角的な視点でチームとして対応している。  
 ・日々の振り返りや定例会で横浜子育てパートナーの活動を伝えることで、職員の理解も深まり、相談対応が共有しやすくなった。  
 ・毎月の相談共有会議で横浜子育てパートナーが相談を受けた案件を区に報告。対応についても共有している。また、緊急性の高い相談者は直接地区担当保健師につないでいる。  
 ・保健師はもとより、地域や関係機関との顔の見える関係を構築した事で、相談者を迅速につなぐことができた。  
**【コロナ禍での重点的な取り組み】**  
 ・ひろば巡回に力をいれることで、コロナ禍における利用者の抱える不安や問題にアプローチし、必要な支援につなげた。

**③【相談者のニーズに合わせ、計画性をもった地域訪問】**  
 ・相談者と関わる中で把握したニーズをもとに、地域や関係機関との継続的なつながりを保持し、さらに、新たな関係性を構築している。  
 ・R2年度より、つどいのひろば4ヶ所に定期的に出張相談をおこなっている。ひろば利用者への相談対応と同時に、ひろば職員へ情報提供、気になるケースの相談共有をおこなう事により、関係性が密となり、効果的な支援につながっている。  
 ・R2年度よりこども家庭支援センターさくらの木との連携で、継続的な養育者支援につなげている。  
**【語り合いの会を担当することによる利用者支援の拡充】**  
 ・「食物アレルギーについて話しましょう」「発達に不安のあるママ同士で話しましょう」支援級に通う親の会「ふわふわ」など拠点で行われている語り合いの会を担当することにより、ピアサポートからニーズのくみ取り、パートナーからの情報提供、相談者のつなぎ先資源として利用者支援の拡充をはかっている。  
**【相談内容に応じた地域資源の開拓とネットワークの構築】**  
 ・発達に関する相談増加に伴い、児童発達支援事業所や、地域の障がい関係の団体を訪問。団体同士の横のつながりの必要性を双方が認識し、横浜子育てパートナーが呼びかけ、団体同士のネットワーク(名称「発達支援つながりワークてくてく」)を発足することができた。  
 ・区の協力のもと、「金沢区障害者地域自立支援協議会児童部会」「分娩施設連絡会」「子育て支援者定例会」などに出席することで、関係機関の方々と顔の見える関係を構築できた。  
 ・健やか子育て連絡会の事務局を担うことで地域の支援者との意見交換、情報提供などの一役を担っている。  
 ・横浜市南部地域療育センターとのつながりから、拠点やつどいのひろばの職員研修として、療育センターのケースワーカーから療育センターのしくみについて直接話を聞くことができた。拠点やつどいのひろばの利用者の中には発達に不安を抱える方・療育センターに通っている親子もいることから、今後の拠点やつどいのひろばの職員の支援の幅が広がるきっかけとなった。  
 ・幼稚園の定期的な訪問や、園長会の出席により、幼稚園との関係性が深められた。結果、横浜子育てパートナー相談の共有について、幼稚園園長会で相談し、各園と直接共有できるしくみが構築された。

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

**【ひとり親・貧困世帯への取り組み】**  
 ・子ども食堂・地域食堂連絡会に出席。金沢区社会福祉協議会を通じて地域で活動している団体との関係構築をスタートさせた。また法人が構成団体となっている「フードバンクかながわ」の研究会に出席するなど、関係をひろげている。

評価の理由(区)

①・母子健康手帳交付時、両親教室、育児教室、こんには赤ちゃん訪問などの機会を利用し、利用者支援事業についての周知を行った。また、主任児童委員連絡会やこんには赤ちゃん訪問定例会などの場でも周知を行った。

②・毎月の相談共有会議など定期的に事例の情報交換を行い、助言や協力を行った。  
 ・拠点で相談のあった継続支援を希望する人が、区保健師や社会福祉職、区の事業につながる事ができるよう、各地区担当と密に情報共有し、個別支援を行うことができた。

③・金沢区障害者地域自立支援協議会、要保護児童対策地域協議会、健やか子育て連絡会に横浜子育てパートナーが入って関係づくりができるよう協力を行った。  
 ・横浜子育てパートナーが区事業の見学に入れるよう、調整を行った。(親子教室、乳幼児健診、両親教室、離乳食教室など)  
 ・子ども食堂、地域食堂連絡会に拠点が出席できるよう調整し、情報を共有した。

拠点事業としての成果と課題

**(成果)**  
 ・区や関係機関との関係構築により、相談者を必要な機関につなぐことができた。  
 ・横浜子育てパートナーの受けた相談を拠点職員と共有していることで、チームとしての対応できた。  
 ・「発達支援つながりワークてくてく」の一歩として、「発達に不安を抱えている親子を支えあう居場所」の一覧を掲載したチラシを作成することができた。チラシの効果として、メンバーが主体となり、療育センターや小学校の個別支援級保護者会、幼稚園、放課後等デイサービス等に配架できた。周知が広がることで、発達に不安を抱えている養育者の選択肢が広がった。

**(課題)**  
 ・横浜子育てパートナーの認知度は上がってきているが、横浜子育てパートナーを知っている人の割合が、拠点の利用者アンケートでは43%、地域子育て支援事業アンケートでは24%であり、今後も周知が必要である。  
 ・今までの顔の見える関係から次のステップとして、利用者支援事業について、横浜子育てパートナーが直接向いて周知するだけでなく、地域や関係機関の方から正確に紹介してもらえるようなネットワークが必要。  
 ・ネットワークで知り得た情報を横浜子育てパートナーだけでなく、拠点職員から利用者にも正確に伝えていけるような、共有の工夫をする必要がある。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。  
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。